

2014 年度 センター試験 理科総合 B(本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：27 問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化	
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少	
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	

総評

大問 4 題（各 25 点）という形式に変化はない。全体の解答数は 2 つ減って 27 となったが、問題量減少というほどの違いはない。難易度も、昨年同様であった。

また、理科総合 A とは異なり、すべての大問に生物分野の設問と地学分野の設問があるが、これも例年通りであった。

身近な自然現象に関して、「資料を読み解く」「実験方法を考える」「実験や観察を行う」「実験は観察の結果を整理して考察する」といった、理科総合の趣旨に沿った特有の出題がされている。決して難易度が高いわけではないが、自然現象に興味を持ち、日頃から考える習慣が身につけていないと取り組みにくいであろう。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	探究活動 ＜生物分野＞ 土壌動物 ＜地学分野＞ 太陽定数	25 点	A 「土壌動物の調査法」に関する問題。 ツルグレン装置を用いた実験，データの読み取り。 B 「太陽定数」に関する問題。 日射量計を用いた実験，エネルギー計算。 問題文およびデータを良く読み取れば難しくはない。
第 2 問	地球の変化 ＜地学分野＞ プレート運動 ＜生物分野＞ 生命の変遷	25 点	A 「プレート運動」に関する問題。 資料の読み取り，プレートの移動，地球内部の層構造。 B 「生命の変遷による地球環境の変化」に関する問題。 地球の歴史，酸素量と二酸化炭素量の変化。 問 5 で示されたグラフは良く知られているが，その変化の様子と生命進化の過程で起こった事柄を関連付けて学習していたかが試されたと言えるだろう。
第 3 問	地域の自然 ＜地学分野＞ 地形 ＜生物分野＞ 生態系 進化・分類	25 点	問 1 「地形」に関する問題。 侵食による地形，堆積による地形。 問 2 ～問 5 「生態系」と「進化・分類」に関する問題。 資料の読み取り，軟体動物の特徴。 いずれも，基本知識や語句が理解できていれば解答できる。
第 4 問	人間活動と地球環境 ＜地学分野＞ 太陽エネルギー ＜生物分野＞ 森林の特徴	25 点	A 「太陽エネルギー」に関する問題。 資料読み取り，太陽放射。 B 「森林」に関する問題。 資料読み取り，森林と人間のかかわり。 平易な資料読み取り問題が多いが，問 3 は各選択肢の内容を資料から正確に読み取り，正誤判定していくことが必要であった。